

河川の中和

群馬県の草津町にある湯川は火山の近くにあるため、鉄釘を溶かしてしまうほど酸性が強く、魚もすめない「死の川」とよばれていた。そこで、中和反応を利用して酸の性質を打ち消し、川をよみがえらせようという取りくみが始まった。



中和には、石灰石(炭酸カルシウムを含む)を細かくくだいたものと水を混ぜた石灰ミルクを用いた。現在は、河川が中和されたため、魚もすめるようになり、下流に住む人も河川の水を生活に利用できるようになった。



① 図A 湯川の水につけた鉄釘

① 図B 河川の中和のようす